

8 バングラデシュ

AMDAバングラデシュ支部長

サダール・A・ナイーム医師(55)



家族連れらでにぎわう首都ダッカのレス
トラン。和やかな雰囲気は一転し、悲鳴が
飛び交う大惨事となりました。

2016年7月1日午後9時21分(現地
時間)、武装したテロ集団が襲撃。爆弾を
投げ、無差別な銃撃を繰り返しました。床
には死体が重なり、血の海となったのです。

犠牲者22人の中には国際協力機構(JICA)関係者の日本人7人(男性5人、女性2人)が含まれていました。天皇、皇后
両陛下は、テロ事件では異例となるお悔や
みの言葉を遺族に伝達されています。

バングラデシュでは13年以来、イスラム
原理主義者による襲撃事件が増えつつあ
り、15年9月以降だけでも30件以上あつた
とされています。

テロの主な要因の一つが貧困です。バン
グラデシュは1971年にパキスタンから
独立。その後、政党間の対立激化による非
常事態宣言、反政府運動などが続き、政府

増えるテロ 背景に貧困 女性への融資で自立促す



AMDAバングラデシュ支部の医師から診察を
受ける洪水の被災者(2012年7月)

は経済政策に対応が及びませんでした。

財政は慢性的な赤字で、外国からの援
助と国内の銀行借り入れなどで補てんす
る構造となっています。政府の徴税能力
と歳入基盤の脆弱性、非効率な国有企業
の存在が起因となっているのです。

AMDAバングラデシュ支部は99年、
独自の貧困対策を始めました。ダッカか
ら南30キロのガザリア地域で、女性約2千
人を対象にマイクロクレジット(低金利
の無担保融資)に取り組んだのです。女
性らは資金を牛や魚網の購入、店舗の
開設などに活用し、自立を目指していま
す。

Aバングラデシュ支部は災害の都度、緊
急支援医療チームを派遣。その数は10回
以上を数えます。

日本はバングラデシュの独立を世界で
いち早く認め、最も援助している国であ
ると国民は小学校の教科書で学んでお
り、極めて親日的です。

その象徴とも言えるのが日本バングラ
デシュ友好病院です。AMDAの支援な
どで1993年、ダッカに開設しました。
現地の医師3人は文部科学省の援助で訪
日、先進医学を学んだ後、病院を経営。
腹腔鏡手術のパイオニア、老年医学の先
駆的存在として注目されています。

貧困と並んで深刻なのが自然災害で
す。熱帯モンスーン地帯のため、雨季に
は毎年のように大雨や洪水、高潮に見舞
われます。多くの人命が失われ、国家レ
ベルの経済発展を阻んできました。AM
DA本部(岡山市北区伊福町)とAMD

さらに、日本バングラデシュ友好看護
学校、AMDA職業訓練センターなどが
あり、日本バングラデシュ医科大学の設
立準備も進んでいます。着々と進む日本
との絆を大切にし、さらなる人道支援に
取り組みたいと願っています。

バングラデシュ 面積は日本の約4
割の14万7000平方キロ。人口は1億6175
万人で大半がイスラム教徒。成人(15
歳以上)の識字率は61%。国民の半数
が農業従事者で、産業の多角化が課題。
海外からの投資促進のため電力、道路
などの基礎インフラの整備も急務。A
MDAバングラデシュ支部は1988年、
ダッカに開設。スタッフは38人。

